

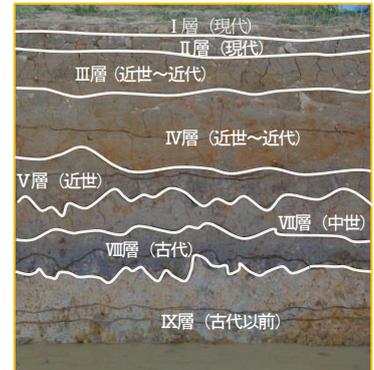
たからだ 柏崎市宝田遺跡説明会資料

平成 26 年 9 月 20 日 (土)

国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
株式会社 ノガミ

1 はじめに

宝田遺跡は柏崎平野北東部を流れる鯖石川左岸の沖積地に立地します。国道 8 号柏崎バイパス事業に伴い、平成 25 年度から調査を行っています。全体の面積は延べ 12 万㎡で、今年度の調査面積は延べ 26,640 ㎡です。古代と中世の水田跡を調査しています。調査区は 4 か所に分かれ、北側から順に 1～4 区と呼称しています。遺跡の標高は約 4.5m で、現地表下約 0.5m～1.1m に埋もれています。



基本層序

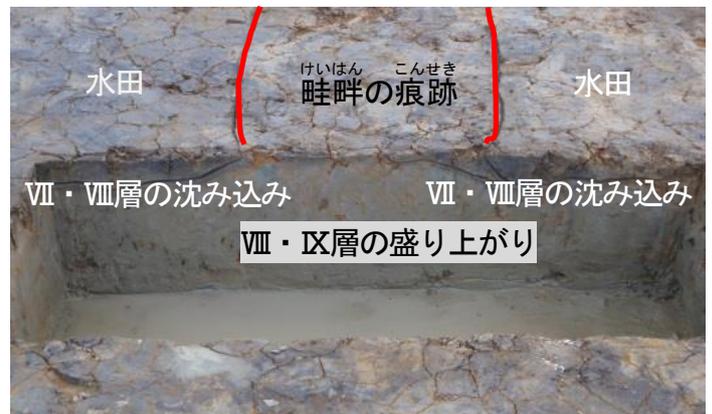
(層の境は耕作で凹凸があります)

2 中世の水田跡 (3 区の調査成果)

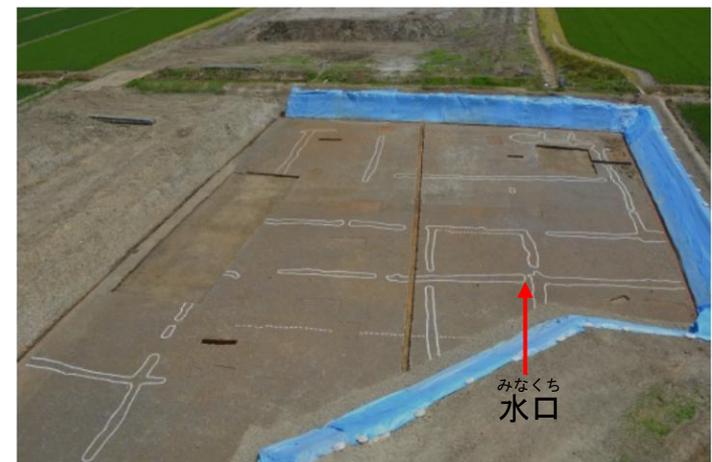
3 区の調査では、耕作時の畦畔(あぜ)の痕跡が見つかりました。これは古代から現在に至るまで、継続的にこの場所で水田耕作が営まれた結果、古い時代の水田は新しい時代の耕作で壊れてしまい、その痕跡のみが残ったためです。

中世の水田跡は基本層序VII層が耕作土で、VII層とVIII層の間で畦畔の痕跡が見つかりました。断面の観察で、VIII・IX層が盛り上がる部分が畦畔の痕跡、逆に周辺のVII・VIII層が凸凹沈み込む部分が水田と分かりました。畦畔がほぼ東西南北の方向に沿って、直線的に作られていたことが分かります。その間隔は 4～6 m 程で、各畦畔により水田が正方形や長方形に区画されています。また畦畔の一部には途切れる箇所があり、いくつかは水を取り入れるための水口と考えられます。

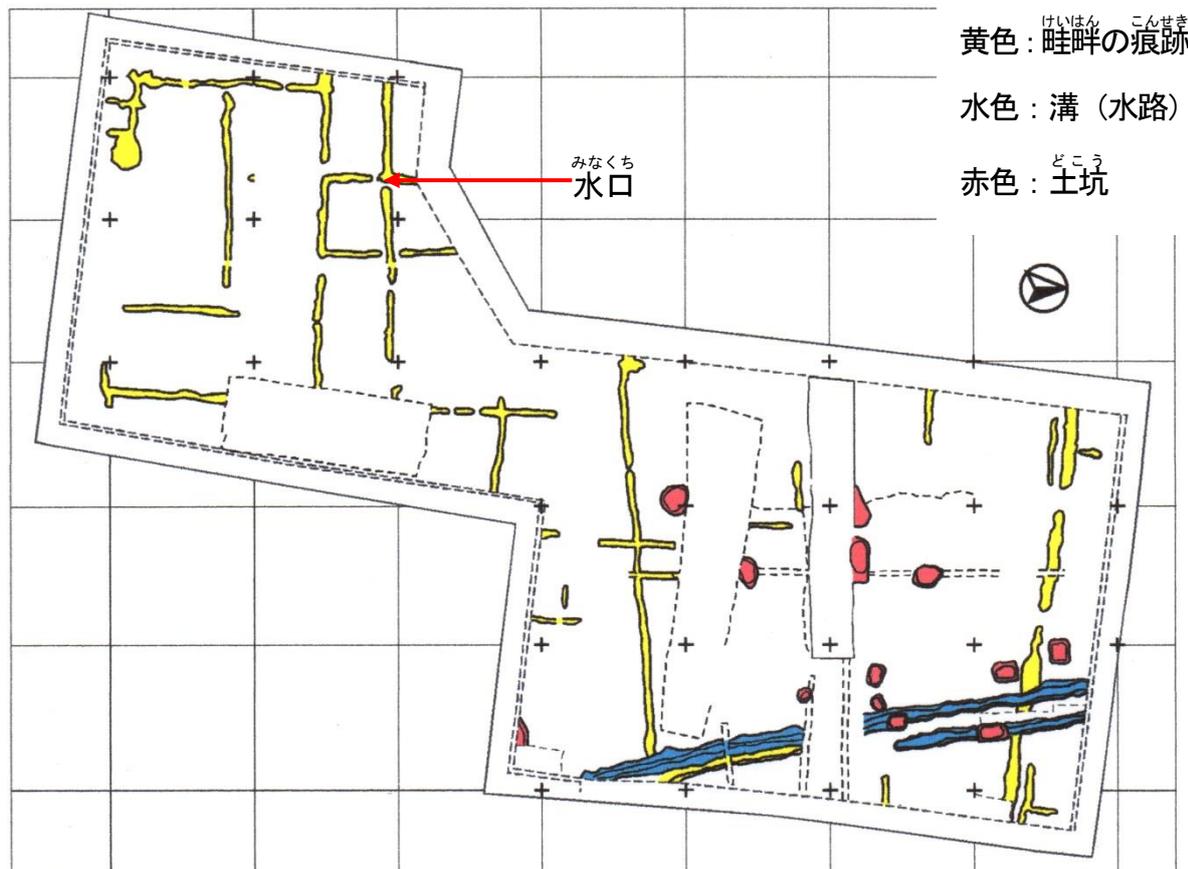
その他、水路とみられる溝や井戸、土坑も発見されました。土坑は長さ約 1.5～2.5m、幅約 1～2 m、深さ約 20～60 cm の長方形のものが目立ちます。土層堆積からは、人為的に一度に埋め戻された様子がうかがえます。これらの土坑からは遺物の出土がなく、掘られた目的は不明ですが、水田との関連があるのかもしれない。



畦畔の痕跡の断面



畦畔の痕跡の検出状況 (白線部分が畦畔の痕跡: 北から)



3区 中世の水田跡 (S=1 : 600)

3 古代の土坑と水田跡 (1区・3区の調査成果)

古代の調査では、1区で中世の調査で見つかったような土坑が、3区で水田の畦畔の痕跡が見つかりました。土坑は中世のものと同規模ですが、埋め戻した後同じ位置に掘り直しているものもありました。土層断面からは、いろいろな土が混じり合った様子が分かり、意図的に埋め戻しているようです。古代の水田はIX層が盛り上がる部分が畦畔の痕跡、VIII層が沈み込む部分が水田です。畦畔の痕跡は断片的で、その間隔や水田の大きさ、形などは不明です。



同じ位置に掘り直した土坑

4 出土した遺物

水田遺跡のため遺物の出土量は少なく、中世では珠洲焼の甕や土師質土器の皿、古代では須恵器の甕などが出土しました。水田耕作のためか、土器の多くは摩り減っています。昨年度の調査では、古代(平安時代)の土師器や「おにぎり状の炭化米」なども出土しています。

5 まとめ

今までの調査で、柏崎平野の水田の様子が少しずつ分かり始めました。山崎遺跡など周辺の集落遺跡の調査成果と合わせ、当時の景観がより一層明確になることが期待されます。